

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 120号

2014/11/24 発行
株式会社 立花商店
坂元 麻美

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：両市場とも前半は続落、ロンドン先物価格は横ばい

- ① 最高3月 LDN 市場£1,879 /3月 NY 市場\$2,835 (11/19) 先週比 **LDN-£40/NY-\$84**
② 最低：3月 LDN 市場£1,871 /3月 NY 市場\$2,809 (11/18) 先週比 **LDN+£8/NY+\$12**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£8 (傾向→) / NY 市場\$26 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN 市場 243,099 枚(11/14 終了時)⇒251,157 枚 (11/20 終了時) **+8,058 枚**
NY 市場 171,858 枚(11/14 終了時) ⇒174,038 枚 (11/20 終了時) **+2,180 枚**

	2014/11/17(月)		2014/11/18(火)		2014/11/19(水)		2014/11/20(木)		2014/11/21(金)	
	LD	NY	LD	NY	LD	NY	LD	NY	LD	NY
4-Dec	1897	2836	1889	2845	1896	2871	1895	2879	1894	2867
5-Mar	1879	2828	1871	2809	1879	2835	1874	2829	1873	2822
5-May	1869	2821	1861	2805	1871	2832	1869	2828	1868	2820

2、ベトナム：世界の主要なカカオ豆産国となりうるか…(11/20)

11月19日ベトナムで開かれたセミナーの中で、ベトナムが将来世界の主要なカカオ豆供給国となりうることを示唆された。

ベトナムの農業・地域開発省の担当である Nguyen Van Hoa 氏は、ベトナムは品質の高いカカオ豆を生産するカカオ農園が拡大していく強力なポテンシャルを持っている国であると述べている。世界の多くの機関や団体が、ベトナムのカカオ豆生産を向上させるために、農家をサポートしている。

彼は「カカオ栽培に近代的な技術を導入し、良い品質のカカオ豆を作れば農家が高い利益を得られるだろう。」と述べた。ベトナムは2015年までに年間の生産量を2万5000トンにまで伸ばすために、カカオ農園を現在の51.5%拡大させ3万3500ヘクタールになるように期待がかかっている。

近年ベトナムの年間のカカオ豆生産量は 5000~6000 トンとまだまだ少なく、ベトナム国内の磨砕業者が必要としているカカオ豆のわずか 10%しか供給できていない。

一方で世界的なカカオに対する需要は増加しており、2020 年には世界全体で 100 万トンの供給不足が生じるとの見込みがあり、新たな生産地として注目が高い。

3、カメルーン：10月末にかけてカカオ豆の輸出量がわずかに減少(11/20)

カメルーンの国立カカオ・コーヒー委員会から発表された統計によると、シーズン開始以降10月までで、カメルーンから輸出されたカカオ豆の数量が昨年比で減少し、4万4085トンとなった。

10月単体で見ると、2万2577トンが出荷されており、昨年10月の2万8316から減少した。一方で輸出業者の数は9月の16社から20社へと増えている。

カメルーンのカカオ主産地となっている4つの地域の農民は、大量の降雨によりカカオ豆の乾燥工程が妨げられていて、思うように出荷できていないと不満をあらわにしている。また一部のカカオ豆が密輸によってカメルーンからナイジェリアに渡っていることも明かしている。

カメルーンにとってカカオ豆は外貨獲得のための重要な農産物である。カメルーンの収穫期は8月1日～翌年の7月31日までとなっており、そのうちメインクロップとされるのは10月～1、2月である。

4、コロンビア：カカオ豆生産量5万トンに達する見込み＝生産者協会(11/20)

コロンビアの国立カカオ生産者協会(Fedecacao)は2014年の1年で、コロンビア国内で収穫されたカカオ豆の数量が5万トンに達すると見込んでいる。昨年の4万7000トンよりも上回る予想である。一部の農園はカカオ樹木の老朽化などにより、リニューアルさせる必要があるとされているが、国際的なカカオ豆相場が高値で推移していることや、コロンビアカカオ豆の高品質のおかげで、地元の農家は強気の姿勢を見せている。

実際、今後8万ヘクタールの農園を改善させる計画や、すでに10万ヘクタールがリニューアルされていることより、生産量を現レベルより倍増させることは容易であるだろう。

コロンビア産カカオ豆は、品質の高さや、味、特有のアロマにより世界的に人気を集めているが、生産量がまだ少ない。コロンビアにはカカオの栽培に適した土地が70万ヘクタールも残っている。

5、コロンビア：Fedecacao、カカオ農園再生に2億2224万ドル投資を検討(11/18)

コロンビアの国立コーヒー栽培連合が、気候変動に対して耐性があるコーヒーの苗木を農家に贈呈したという前例に続き、カカオ生産者協会(Fedecacao)はカカオ農園の再生に動き出している。

Fedecacao は国のカカオ農園の53%を占める15万ヘクタールを再生させたいと考えている。

カカオ生産者は1ヘクタールを再生させるのに、約2315ドル～2778ドルのコストが必要となり、目標の面積分の再生には全体で2億2224万ドルの投資が求められる。

こうした計画は11月18日のNational Cocoa Congressで討議されることとなっており、Fedecacaoは国の生産量に過大なインパクトを与えてしまうことを避けて、地域ごとにいかに農園を再生していくかを検討する予定である。

カカオ農園の再生によって、コロンビア産カカオがコロンビア国内へも十分に供給されることへもつながる。2013年の1月～8月までで、カカオ製品の輸入金額は3760万ドルにも達している。

Fedecacao の計画がうまくいけば、カカオ豆の輸出量が今の7000トンから1万トンへ伸びるとされており、農家にとって手助けとなる。地元のカカオ業界は1億1575万ドルの市場価値があり、7万5000人の雇用の吸収先となっている。

6、コートジ：メインクロップが始まって以来、天候に恵まれる(11/17)

コートジのカカオ生産地は日光照射と適度な雨に恵まれてカカオの成長状態が良く、さらに農家は続く乾季の到来を待っている。

コートジのメインクロップは10月から3月であるが、今シーズンも10月の初めには収穫が始まった。輸出業者によると11月10～16日の1週間で6万1000トン近くのカカオ豆が港に集まったとされる。10月以降の累計数量は34万2000トンとなった。

昨年比でわずかに下落している。

コートジでは毎年、11月中旬から3月にかけて乾季が訪れる。この影響で、土壌の水分値がカカオ成長にとって好ましい状態となり、1月を通して高品質のカカオ豆が大量に収穫できる。

しかしながら、同時に農家は12月から3月にかけて起こるサハラ砂漠から吹く砂混じりの熱風であるハルマッタンについて懸念を示している。この影響が大きいと生産量にダメージを与えてしまう。

南部のDivo地区では、雨と晴れ間が交互に現れカカオの生育を促進させた。Divo地区の農家は「今のところ、順調で収穫もうまくいっている。ただハルマッタンの影響が気になる。なぜなら12月からこの砂漠からの風が強くなってくると、せっかく実っている小さいカカオポッドが落ちてしまい、2月の収穫量が落ちてしまう。」と述べている。

コートジのカカオ生産地帯の西部Soubre地区では先々週、先週で69mm、34mmの降雨が観測された。同地区の農家は「カカオポッドが成熟してきている。先週はたくさんのカカオが収穫された。先週に続き、適度に雨が降り1月の収穫までにカカオ豆の品質が向上し、大きなポッドが実るだろう。」と述べている。

こうした天候の恵みはAboisso, Agboville, Tiassale, Duekoue, Gagnoaでも見られた。

コートジのカカオ生産量の1/4を担うDaloaでは、高温が続きブラックポッド病の蔓延を弱めた。

7、チョコレート好きに痛手、チョコレート需要増と原料高により製品が値上がり(11/19)

カカオ原料の高騰と、アジアでのチョコレート需要の上昇が供給量を上回ったことにより、チョコレート価格が上昇しており、チョコ好きにとっては痛手となっている。

チョコレートの消費量が供給量を上回った為に、ここ最近は一気に需給バランスが逆転した。国際カカオ協会は「カカオの消費量はインドやブラジルや中国からの需要増により 2008 年から 2012 年まで年間で平均 3% ずつ上昇してきた。」と公表した。

世界トップ 2 のチョコレートメーカーのマーズとバリーカレボーは、今世界はかつてないほど、チョコレート需要が高まり、供給不安の中にあると報告しており、この状況は長期的に続くとしている。

この 2 社は 2020 年までに世界で消費されるチョコレートの量は 100 万トンにまで上昇すると懸念している。これは昨年の 7 万トンと比較し 14 倍もの量にあたる。

バリーカレボーは「2015 年までにもカカオの供給不足は十分起こりうる。」と述べている。この供給不足の主要な要因は西アフリカにおけるカカオの生産量が減少することにある。コートジボワールとガーナだけで世界のカカオ豆生産量の 70% を占めているが、この 2 か国は深刻な乾燥気候と Frosty pod として知られる恐ろしい病気によって生産量にダメージを受けると考えられている

Frosty Pod



《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp